

ひだかなやま 飛騨金山のパワーストーン

ほたるいし

蛍石 Fluorite フッ素石



ほたるいし

Power Stones 蛍石のパワー

は主に 精神の安定や魂の浄化など
精神性を高める効果があるといわれています。
特に緑色の蛍石は他の色に比べて
ヒーリング効果に優れ 心身ともに癒しと
パワーアップ効果が期待できます。

ささほら

金山の笹洞鉱山跡地で採れる蛍石は、
透明～乳白色・淡いグリーン・紫色などがあり
他の石人類では瑪瑙（アゲート）や玉髄
（カルセドニー）・碧玉（ジャスパー）などの
パワーストーンも採集することができます。

MEMO

ほたるいし

蛍石は金属の精錬時に用いる溶融剤や天体望遠鏡や望遠カメラなど高級なカメラのレンズに使用される鉱物です。化学組成はフッ素とカルシウムの化合物で硬さを示すモース硬度（10段階）は4と比較的柔らかく、劈開といてある方向には簡単に割れてしまう性質のため、八面体のようなきれいな割れ方をします。加熱すると淡い青色を発し、パチパチと飛び散ります。



ほたるいし 蛍光 (Fluorescence)

蛍光灯や蛍光塗料でおなじみの“蛍光”は蛍石由来しますが、夏の夜に乱舞するホタルの光は、化学反応によるものなので別現象。蛍石の発光は紫外線にさらされると結晶構造の中の活性体とよばれる異質な原子が引き出す現象によるものです。

ほたるいし
蛍石



紫外線（UVライト・ブラックライト）を当てると青紫色の可視光を発する性質のものもあります



金山町観光協会主催

Minerals Hunting Guide Tour

ささほら 笹洞蛍石鉱山

ミネラルハンティング ガイドツアー 開催中!

採集アドバイスから鉱山施設めぐり
までガイドのご案内します!



【開催期間】 3/1～10/31 まで
（冬期は休業です）

【午前部】 9:30 集合 【午後部】 14:00 集合

【所要時間】 各回とも約2時間 **参加には予約が必要です**

【集合場所】 菅田公民館（岐阜県下呂市金山町菅田桐洞 699-3）

【料金】 大人 2,500 円 + 子供 500 円
子供のみ参加 ひとり 2,500 円

採集した石は各自 1kg まで持ち帰ることができます

持ち物

- 採集道具（ピックハンマーやクマデなど）
- 手袋
- タオル
- 飲み物
- 虫よけスプレー
- 小型の UV ライト（ブラックライト）があれば 蛍石を見つけやすく楽しめます



服装

- 汚れてもよい格好
- 長袖シャツ
- 長ズボン
- 長靴推奨



採集用のバケツはレンタルできます

夏場は山とりに注意です!
肌の露出はできるだけ控えてください

【お問合せ／予約受付】

金山町観光協会 TEL.080-3637-2201

〒509-1614 岐阜県下呂市金山町大船渡 679-1 FAX.0576-32-3543

E-mail: hidakanayama@hidakanayama.com

ひだかなやま 飛騨金山のパワーストーン 螢石

岐阜県下呂市金山町菅田笹洞

ささほらほたるいしこうざん 笹洞螢石鉱山の歴史

国内の螢石鉱山

国内では、岐阜県中津川市田原や苗木などのベグマタイトや、岐阜県関市の平岩鉱山などの石英斑岩を母体とする石英脈・玉髓質石英脈が知られています。他にも全国各地に螢石の産地や鉱山が分布しますが、主に岐阜県の飛騨地方から山陽地方にかけて集中しています。中でも **岐阜県関市の平岩鉱山** は、日本の生産量 第1位を誇り、続いて **下呂市金山町の笹洞鉱山** が第2位といわれています。

『平岩鉱山と笹洞鉱山』は 日本最大の螢石鉱床

平岩鉱山と笹洞鉱山はひとつの巨大な螢石鉱体にあります。山をはさんで平岩鉱山は関市側から、笹洞鉱山は下呂市金山町側から掘り進め、鉱脈の最大幅は5m、断層をはさんだ総延長は600m以上に及んだと推察されています。全国的にも最も優良な螢石鉱山とされています。生産量は平岩鉱山が年間6,700トンで、笹洞鉱山が年間6,000トン、他に同一鉱脈の登尾鉱山などもあり、あわせて総産量は推定23万トンにも及び、日本の螢石産出量の70%以上を占めています。

昭和40年前後に生産のピークを迎え、その後螢石の鉱脈が徐々に細り産出量が減少。それに加え海外の安い鉱石が輸入されたことにより、国内のほとんどの種類の鉱石鉱山がグローバル化で閉山に追い込まれました。

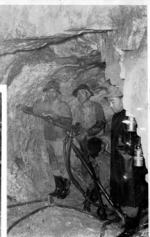
現在、笹洞鉱山跡地は私有地のため 許可なく立ち入ることができません。

金山町観光協会では、

ガイド付き跡地見学と鉱石のかけらを拾う

『ミネラルハンティングツアー』を開催中！

探検気分でのパワーストーン探しをお楽しみください。



螢石の切り刃（露頭）

本坑（通洞坑）に続く トロッコのレール

関市上之保 高屋地区 平岩 菅田地区 笹洞 下呂市 金山町

関市 平岩鉱山 本坑 ● 笹洞鉱山 本坑 ●

日本一の産出量 年間 6,700トン

第2位 年間 6,000トン

全国の70%以上を産出！

名称	ひらいわ 平岩鉱山	ささほら 笹洞鉱山	正式名は 松下山
所在地	岐阜県関市 上之保平岩	岐阜県下呂市 金山町菅田笹洞	
発見	1950年(昭和25年)	1959年(昭和34年)	
採掘	1954年(昭和29年) 全国産額の53%を産出	1960年(昭和35年)	
最盛期	1955年(昭和30年) 全国産額の78%を産出	1966年(昭和41年)	
閉山	1973年(昭和48年)	1971年(昭和46年)	

現存する砕石機



現在の本坑坑口（立入禁止）



坑道内



“金山町 かなやまちょう” 地名の由来は「金の山」？



「金山で金が採れるの？」とよく聞かれますが、地名の金の由来は、黄金の金を意味するのではなく、銀や銅、鉛など金属を代表する「金」といわれています。

金山町誌（昭和50年発行）によると、「1150余年前すでに村名が金山、と称されていたことから推定して、それ以前から金類が掘られていたと思われる。江戸時代尾張藩が産業振興のため、鉱業奨励を行い金山きざんが盛んに採掘されていたと伝えられている。明治時代に休鉱し現在では各所に廃鉱跡が見られるだけであるが、江戸時代の諸文献により当時の状況を知ることができる。」とあります。大正7年(1918)頃には、戸部地区から菅田地区にかけてマンガン鉱が盛んに採掘され、昭和40年代には螢石や珪石、磁鉄鉱、陶石なども金山各地で採掘されていましたが、金の鉱脈は少なく、鉱物資源が豊富であったことから代表する「金」が地名につけられているようです。

金山町 鉱業の歴史



〔参考文献〕 ミネラ 47 (園芸 JAPAN 6月号増刊) エスプレス・メディア出版 2017年 / ビジュアル博物館 (第25巻) 結晶と宝石 榊 同朋舎出版 1992年 金山町誌 (昭和50年発行) / ましたむら (手くばりコミコミ誌) No.48 「ましたの地学」 飛騨地学研究会 岩田 修 他

2018年3月